【別紙様式２】（小学校用）

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	広島県豊田郡安浦町立内海小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	１	１	２	１	１	１０	１７
児童数	４１	４３	３１	２２	４４	２９	１	２１１	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

表現力を高める指導の工夫
～　国語科・算数科を中心として　～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・　全学年・国語科(年度途中から算数科も取り組む)

～理由～

一昨年度はじめ，本校の児童において言葉の力がついていないという認識から取り組みが出発した。広島県教育委員会が実施した基礎・基本定着調査から，生活面においては，テレビやゲームに１日３時間以上費やしている児童が過半数も見られ，読書をしていない児童の割合も高いという結果が出た。このことは，子どもたちのコミュニケーション能力の低下として現れており，対人関係においても小さなトラブルを生起させていると考えられる。

学習場面における子どもたちの様子は，学年が高くなるにつれて発言者が固定化したり，間違うことを恥ずかしいと思うあまり発言を控えたり，学習集団の中でのかかわりが希薄であったりする。また，学習規律面では，特に「聞く」姿勢ができていない児童も多く見られる。

こういった実態から国語科を中心に表現力を高めるための実践研究を進めていくことにした。なお，本年度から算数科をあらたに加えたのは，算数科においての学力が十分ついていないという実態が各調査によって明らかになってきたためである。

(2)　年次ごとの計画

平成14年度	○　テーマ 「表現力をたがやす指導の工夫　　～　国語科を中心として　～　」 ○　仮説 国語科を中心に基礎・基本の定着を図り豊かな表現力を身につけさせるためには，豊富な体験を通した学習，表現する場の設定や工夫，興味・関心を高める指導の工夫や教材選択，指導体制を含めた支援のあり方などを追求していくことが必要であろう。 ○　研究内容・方法 （１）　研究の内容 【基礎・基本の定着】 ・　国語科における基礎・基本を明らかにし，その定着を図るための指導法の工夫をする。 【表現力をたがやす】 ・　「表現力をたがやす」ために具体的な指導方法を明らかにしていく。

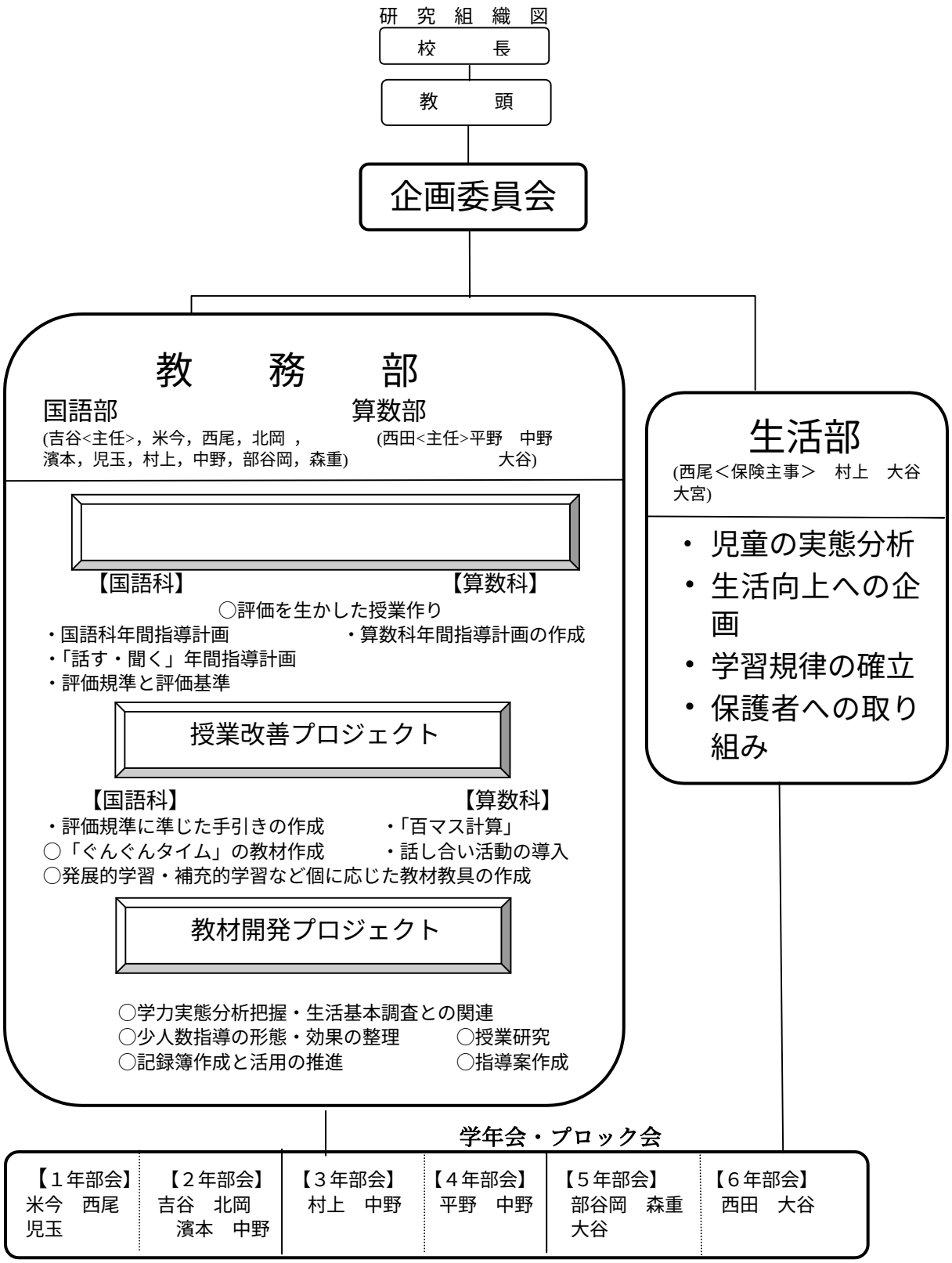
平成１４年度	・　子どもたちが自分の思いや願いをのびのびと表現したり，自信をもって表現したりするために教材研究や支援のあり方を工夫する。 【指導体制】 ・　一時間毎の授業のねらいを設定し授業研究を行う。 ・　ティーム・ティーチング(＊以下「ＴＴ」と記すことにする)を中心にした指導体制を工夫し，個に応じた指導のあり方を追求する。 ・　評価規準を作成し指導に生かしていく。 （２）　研究の方法 【基礎・基本の定着】 ・　国語科における基礎・基本を整理して各学年の到達目標及び評価規準を明らかにしながら授業改善に生かしていく。 ・　授業の中や「ぐんぐんタイム」における繰り返し学習を大切にしていく。 【表現力をたがやす】 ・　「表現力をたがやす」ために必要な基礎的・基本的な内容を焦点化するために，「聞くこと・話すこと」の年間指導計画を作成し取り組んでいく。 ・　教科における系統性や児童の発達段階，他教科・領域との関連性に配慮した年間指導計画を作成し授業に生かしていく。 【指導体制】 ・　基礎的・基本的な内容が身につくように，指導過程，教材・教具，指導形態などの工夫を行う。 ・　研究テーマを常に意識して授業を行うとともに，事前・事後の研修の場を大切にした授業研究を積み重ねて検証を進めていく。 ・　ＴＴや合同授業などの指導体制を工夫し，子どもたち一人一人にきめ細やかな指導ができるようにする。 ・　講師を招聘したり，校内外の研修に積極的に参加したりすることを通して指導者としての力量を高め，学んだことを校内全体に普及していく。

平成15年度	○テーマ 「表現力を高める指導の方法　　～国語科・算数科を中心として～　」 ○研究の仮説 　国語科・算数科を中心に表現力を高めることを通して基礎・基本の定着を図るためには， ・昨年度作成した「聞くこと・話すこと」年間指導計画を充実させ，教科及びその他多くの場の設定の中で系統的に繰り返し実践していくこと ・国語科・算数科を中心とした指導体制・指導方法の工夫・改善 ・評価を生かした授業作りの実践 を図ることが必要である。 ○研究の内容と方法 (１)研究の内容 　①　「指導と評価」の研究 　　Ａ　国語科・算数科年間指導計画を工夫・改善 　　Ｂ　評価を生かした授業作り 　　Ｃ　評価規準と評価のめやす作成 　　Ｄ　「聞くこと・話すこと」年間指導計画の改善と実施 　②　教材開発の研究 　　Ａ　評価規準に準じた手引きを作成し活用していく 　　Ｂ　「ぐんぐんタイム」に行う教材教具を開発し活用していく 　　Ｃ　発展的学習・補充的学習など個に応じた教材教具の作成 　　Ｄ　基礎・基本としての指導事項を整理し，「音声言語指導事項一覧表」を作成する

	③　授業改善の研究 Ａ　少人数指導の形態を整理し，学校としてのとらえを明らかにしていく Ｂ　児童の実態分析を授業改善に生かしていく Ｃ　算数科で「表現力を高めるための授業」をつくっていく Ｄ　少人数指導での授業における記録簿の作成と活用 (２)検証の方法 〇意識調査(児童・保護者) 〇学習内容の定着度(ＣＲＴ　ＮＲＴ　単元テスト他) 〇学習の記録簿 〇個人カルテ(「音声言語指導事項一覧表」をもとにした) 〇学年部会での評価交流 ＊　昨年度の中間報告書の内容と基本的には変更されてないが，その方法として本年度は３つのプロジェクトを立ち上げ学校全体で組織的に研究をすすめることとした。

平成16年度	〇　テーマ 「豊かに伝え合う力を育てるための指導の工夫 ～　国語科・算数科を中心として　～」 〇　研究の見通し 一年次「表現力をたがやし」，二年次「表現力を高め」，そして今年度はすべての教育活動の中で「音声言語指導事項一覧表」を活用することで，「豊かに伝え合う力」を育てることをねらいとして取り組む。 〇　研究の内容・方法 ①「指導と評価」の研究 Ａ　すべての教育活動の中での「音声言語指導事項一覧表」の活用 Ｂ　国語科・算数科年間指導計画の改善と実施 Ｃ　「個人カルテ」を生かした授業づくり Ｄ　評価のめあすの作成 Ｅ　「聞くこと・話すこと」年間指導計画の改善と実施 ②教材開発の研究 Ａ　評価規準に準じた手引きの作成 Ｂ　「ぐんぐんタイム」で行う個に応じた教材の改善と実施 Ｃ　発展的学習・補充的学習など個に応じた教材教具の作成と実施 ③授業改善の研究 Ａ　個と集団を高めるための指導の工夫 Ｂ　学習の記録簿の活用と改善 Ｃ　「学び方交流会」の計画と実施 Ｄ　学力実態分析，生活実態と学力の関連を明らかにする 〇　検証の方法 ・意識調査(児童・保護者) ・学習内容の定着度(ＣＲＴ　ＮＲＴ　単元テスト他) ・学習の記録簿 ・個人カルテ(「音声言語指導事項一覧表」をもとにした) ・学年部会での評価交流

(3)　研究推進体制



＊　学校として研究体制上，特に工夫している点は，学校全体で組織的に研究を進めていけるように３つのプロジェクトを立ち上げ相互に連携をとりながら取り組みを進めた。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

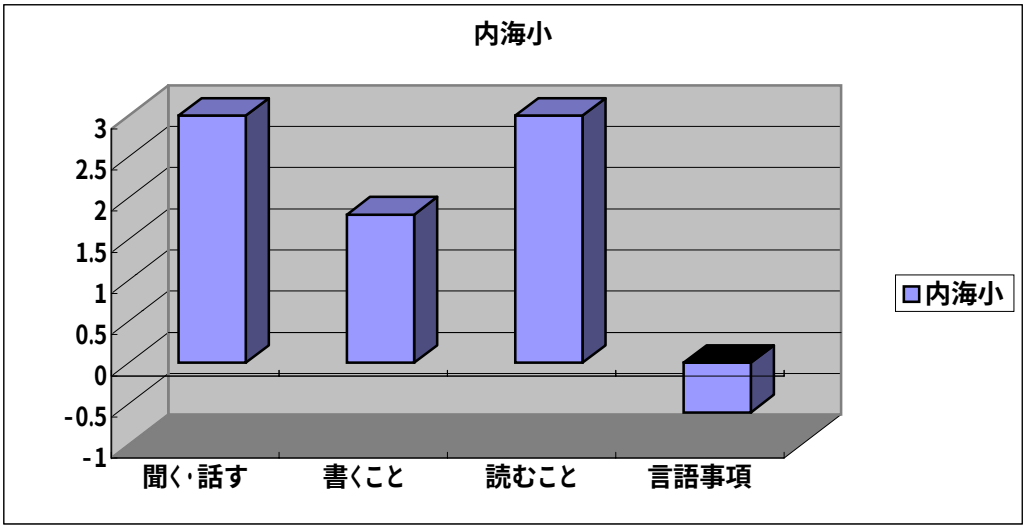
１．研究の成果

【成果①】「ぐんぐんタイム」の取り組み，「聞くこと・話すこと」の年間指導計画の作成と実施，「音声言語」指導事項一覧表をもとにした短冊を生かした授業の実践，さらには指導と評価の一体化をすることで，「聞くこと・話すこと」特に「聞くこと」の領域で力がついてきた。

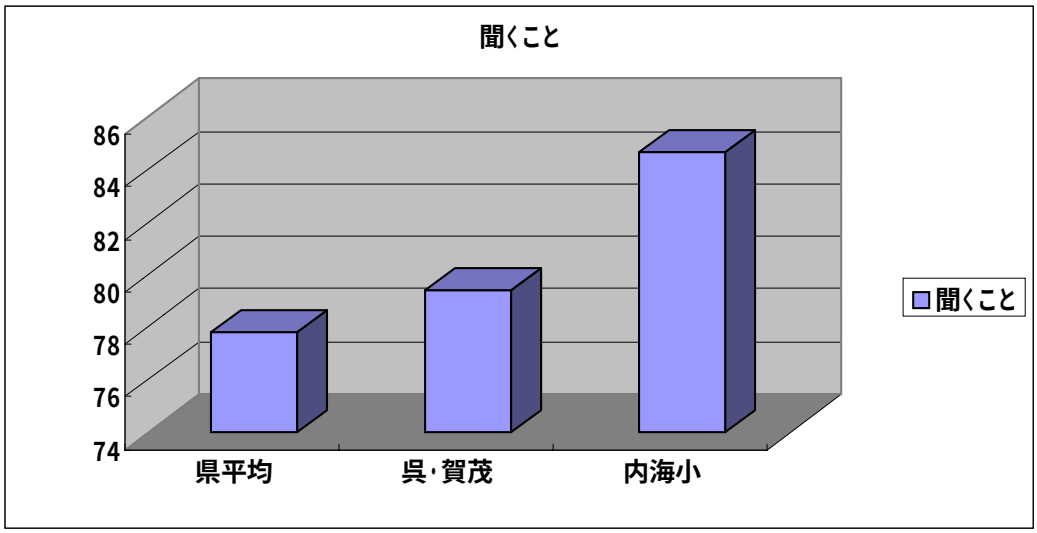
【成果②】Ｔや少人数指導に取り組むことで，児童の学習意欲が高まってきた。(中学年ではＴＴ，高学年では少人数指導での取り組みにおいて学習意欲が高まってきた。)

①についての成果は，ＣＲＴと「基礎・基本」定着状況調査(広島県教育委員会)において検証した。このグラフは，全国比をゼロとした場合の本校との差異で表してある。「話すこと・聞くこと」の領域では，本校の平均は全国平均よりも３ポイント上回った結果が出た。

【ＣＲＴの結果～全学年】平成１５年３月実施



【「基礎・基本」定着状況調査】平成１５年６月実施

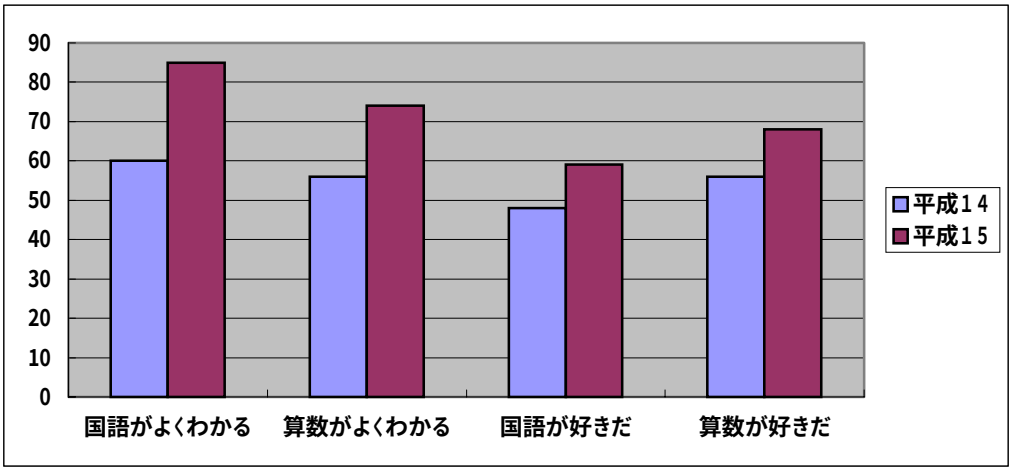


本年度の「基礎・基本」定着状況調査から，広島県の平均通過率が７７．８％であるのに対し本校は８６．７％で，県平均通過率よりも８．９％高いという結果が出た。

次に，学習意欲面については，「基礎・基本」定着状況調査をもとにして検証を行った。本調査は，児童生徒を対象とした学力に関する意識・実態についての結果と各教科(国語科・算数科)の通過率との相関を行っている。さらに重回帰分析の手法を用いて通過率への影響の程度を調べている。

その結果から，小学校の国語科・算数科について，高い通過率と相関があると考えられる項目が５つ明らかになった。そこで，それらの項目の中の「授業がよくわかる」という項目に絞って６年生児童を対象に，情意面の変化を昨年度と今年度で比較してみた。ただし，本年度と昨年度で異なった項目は削除した。

【「基礎・基本」定着状況調査】平成１４・１５年６月実施

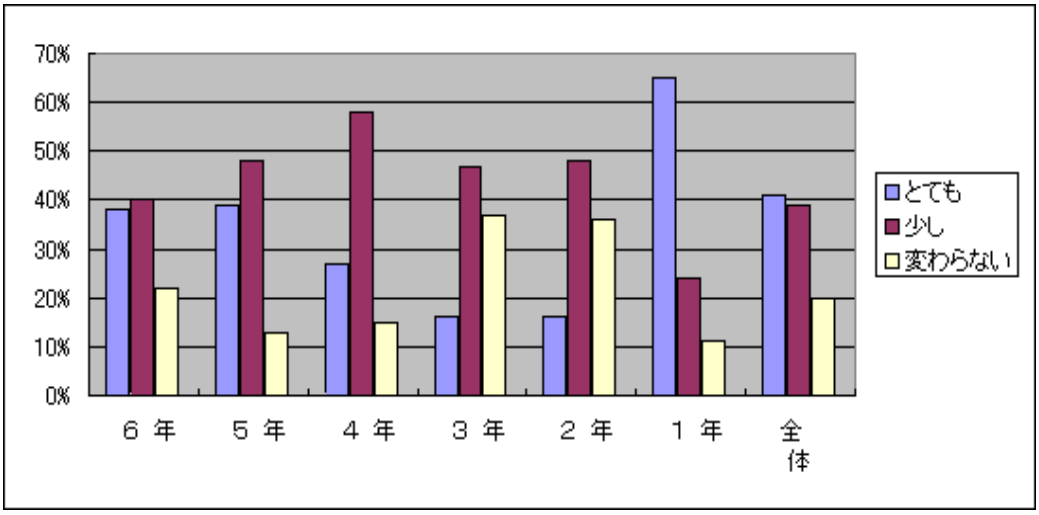


昨年度と比較することで，学習に対する児童の意識が高まっていることがわかる。「授業がよくわかる」項目を見れば，国語科において２５％，算数科においては１８％上昇している。さらに，「勉強がすきだ」という項目においても，国語科で９％，算数科で１２％高まっていることがわかる。

次に，指導法に対する意識については，本年度広島県教育委員会が行った「学習に対する意識調査」(ⅠとⅡ)と本校が昨年度実施したアンケートをもとに検証を行った。

本校が昨年実施したアンケート結果の一部(平成１４年６月実施)

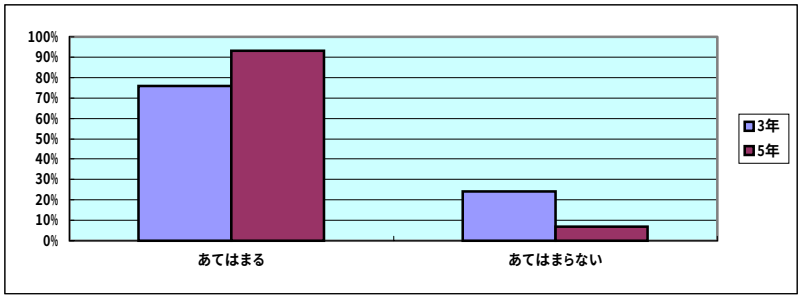
質問項目「２人の先生がいてくれるので勉強がわかるようになった」



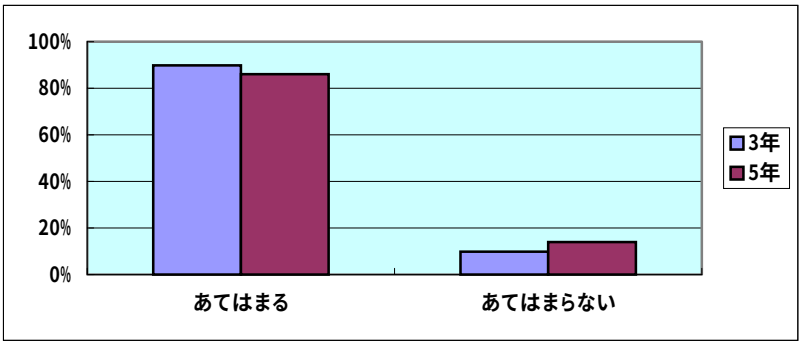
昨年度は，ＴＴ体制で国語科の授業を行った。その結果，約８割の児童が「勉強がわかりやすい」と答えている。

今年度の結果は，次の通りである。

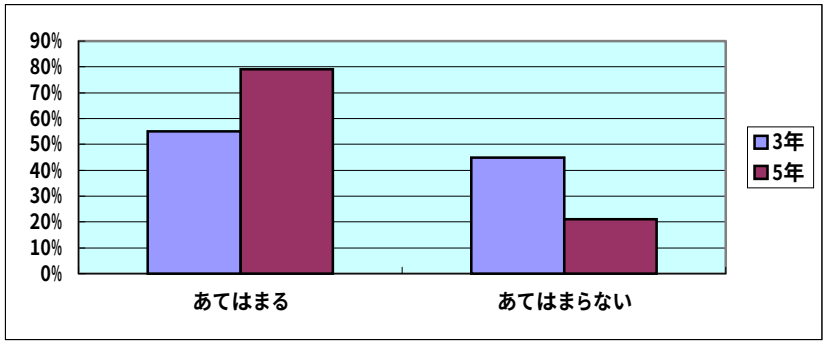
質問項目「勉強の内容がよくわかる」【コース別】



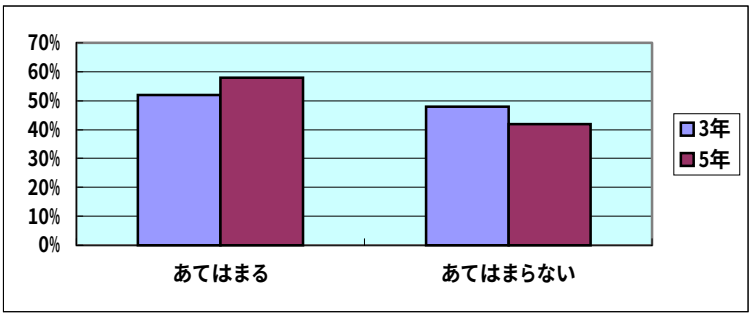
質問項目「勉強の内容がよくわかる」【ＴＴ】



質問項目「その教科がすきになっている」【コース別】



質問項目「その教科がすきになっている」【ＴＴ】



この調査結果からも約８割以上の児童が「勉強の内容がよくわかる」と答えている。コース別とＴＴで比較すれば，３学年と５学年で若干の差異が見られる。３学年においてはコース別学習よりもＴＴでの学習の方が「よくわかる」と答えており，その差は１４％もある。

一方，５学年はその逆で，コース別学習の方が「よくわかる」と答えており，その差は７％であった。これを，「えらんだコースが自分にあっている」かという設問の結果と関連付けて見る

と，３学年と比較すれば，５学年は自分にあったコース選択ができており(９３%)，そのコースで学習することで「勉強の内容がよくわかる」ととらえることができる。
　３学年では，自分にあったコース選択が５学年に比べて低く(８３%)，コース別学習よりもＴＴでの学習形態において学習意欲が高まっていると考えられる。さらに，３学年は約半数の児童が授業形態にかかわりなく「その教科がすきになっている」と答えているが，５学年では，明らかにコース別学習によって「その教科がすきになって」いる。つまり，５学年では，コース別学習の学習形態において学習意欲が高まり，自分にあったコースで学習することで「勉強の内容がよくわかる」と考えられる。

２．今後の課題

○　「指導と評価」プロジェクト
- 「音声言語指導事項一覧表」を作成することができ，指導項目を明確に意識し指導することができ，さらに評価も積み上げができてきた。今後も，学校全体だけでなく，中学校とも連携して，９年間を見通して表現力をつけていく方向が明らかになった。
- 国語科だけでなく他教科・領域でも，この一覧表を活用して表現力を高めていくよう実践研究を進めていく。

○　「教材開発」プロジェクト
- 児童の学習意欲を高め，１時間ごとの目標にせまるために，指導事項を明確にした教材教具をさらに開発していく。
- 「ぐんぐんタイム」で使う教材をさらに開発していく。
- 補充的学習や発展的学習で使う教材教具の開発を充実させていく。
- 評価規準に準じた手引きをより充実させていく。

○　「授業改善」プロジェクト
- 研究授業等で少人数指導を工夫した実践ができたが，さらに児童１人ひとりの学力を高めるために指導者間で連携を密にし計画的に実践研究していく。
- 座席表や観察記録表，児童名簿を活用して分担して評価を行う。
- コース別学習の特徴を生かせるように「つけたい力」を明確にして実践研究していく。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○学習内容の定着状況を把握するため
- ＣＲＴ(国語科と算数科)　　年度末の２月末から３月上旬に実施(今年で２回目)
- ＮＲＴ(国語科と算数科)　　年度初の５月(今年で２回目)
- 広島県教育委員会が実施する「基礎・基本」定着状況調査(国語科と算数科)
  毎年６月に実施

○生活と学習に関する意識・実態についての調査
- 広島県教育委員会が実施する「基礎・基本」定着状況調査
  毎年６月に実施

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○フロンティア南部地区協議会

日時	平成１５年８月２７日
場所	安浦中学校
対象	教職員　教育関係者
目的	研究成果の普及
内容	小学校・中学校授業公開(国語科・算数・数学科・英語科)

○研究会の実施・・・日時　平成１５年１１月１１日　９時１５分～１６時１０分
場所　内海小学校
対象　教職員　教育関係者　保護者　地域(参加人数　１７９名)
目的　研究成果の普及

○中間報告会　・・・日時　平成１６年1月２１日　１５時～１７時
場所　安浦町民センター
対象　教職員　教育関係者(参加人数　１１１名)
目的　研究成果の普及

＊　ＨＰを作成し研究の概略を掲載している。またフロンティア３校の実践をまとめた研究紀要も作成して研究の普及に努めている。
＊　マスコミ関係
「総合教育技術」(小学館)の取材を受け記事として掲載される
「日本教育新聞」への掲載

＊　他校からの資料請求
栃木県・氏家小学校　神奈川県・東林小学校　栃木県・中村南小学校
滋賀県・小野小学校　山口県・向揚小学校　香川県・相生小学校
茨城県・斗利出小学校　大分県・三佐小学校　滋賀県・片岡小学校
大阪府・吹田南小学校　埼玉県・宮代小学校　福岡県・千年小学校
茨城県・下大野小学校　茨城県・結城小学校
他校からの学校訪問(研究会以外)
大阪府・南山本小学校(２名)　京都府・大山崎小学校(３名以上)

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　■７～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導
□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　■国語　□社会　■算数　□理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無